平成３０年度市町村職員道内先進事例研修　研修先の概要

研修１　沼田町

⑴　**町の概要**　　人口：3,130 人　世帯数：1,515 世帯（平成 30 年８月末現在）

⑵　**テ ー マ**　　農村型コンパクトエコタウンの取組

⑶　**取組概要**

沼田町は平成 26 年度に住民との協議を重ね「農村型コンパクトエコタウン構想」を策定した。「歩いて暮らせるまちづくり」を目標として、旧沼田中学校跡地（4.6ha）を中心とする 500m 圏内に医療や保健福祉、買い物など、住民の生活関連機能の集約を進めてきた。

平成 29 年に町、商工会、北いぶき農協が出資したまちづくり会社が運営する商業コミュニティ施設「まちなかほっとタウン」が完成した。スーパーマーケットをはじめ、地元の特産品や贈答品を販売する物産サービスセンターや金融機関が入居。エリア内では地域密着多機能型総合センター「暮らしの安心センター」が平成 29 年 10 月にオープンしたほか、町立沼田厚生クリニックやデイサービスセンター、健康や介護等の相談に対応する沼田あんしんセンターや住民交流カフェ等を整備した。

本研修では構想策定に至る住民の合意形成の進め方とともに、少子高齢化や人口減少を見据えた生活関連機能等の集約によるコンパクトなまちづくりを進める町の取組や現状・効果等を学ぶ。

研修２　秩父別町

⑴　**町の概要**　　人口：2,420 人　世帯数：1,120 世帯（平成 30 年８月末現在）

⑵　**テ ー マ**　　「キッズスクエア ちっくる」の整備と定住促進の取組

⑶　**取組概要**

ア　「キッズスクエアちっくる」の整備

秩父別町は平成 29 年４月、子どもたちが、季節や天候に関係なく、安全で快適な遊びを楽しむことができる、通年型屋内遊戯場「キッズスクエアちっくる」の供用を開始した。施設は約 600 ㎡の床面積があり、屋内には道内最大級の大型ネット遊具をはじめ、クライミングウォールやチューブスライダーなどの遊具を設置。子どもの年齢や発達段階に合わせた遊びを楽しむことができる。当初は年間３万人の入込みを目標としていたが、近隣市町村からの来訪客も多く３カ月で目標を突破した。平成 30 年７月には新たに屋外遊戯場も整備した。本研修では、施設の整備に至った背景や取組の手法、町内における定住促進の推進や子育て支援、交流人口の拡大等の成果を学ぶ。

イ　定住促進の取組

秩父別町は移住者の確保、少子化対策、定住人口の維持・増加の三段構えで人口減少対策に取り組んでいる。平成 22 年度には、学校跡地を移住・定住促進用団地として整備。１平方㍍１円で分譲する「１円宅地」が注目を集めた。また、町内での同窓会婚活交流事業に対する支援や子育て世代を対象にした各種助成等の幅広い移住・定住施策を展開している。本研修では特徴的な移住・定住施策の展開手法や効果について学ぶ。

研修３　北竜町

⑴　**町の概要**　　人口：1,881 人　世帯数：843 世帯（平成 30 年９月１日現在）

⑵　**テ ー マ**　　商業活性化施設「ＣＯＣＯＷＡ」の整備と買い物支援対策

⑶　**取組概要**

町内唯一のスーパーが閉店した北竜町では平成 30 年４月、町の第３セクターである北竜振興公社が、町の財政支援を受けて商業活性化施設「ＣＯＣＯＷＡ（ココワ）」を開業した。生鮮食料品や日用雑貨などを扱うスーパーマーケットを中心に、コミュニティスペースや、高齢者等の健康づくりや各種支援に対応する「和（やわら）地区支え合いセンター」などがあり、商工会事務局も入居している。

建物や駐車場の整備、備品購入費などの事業費総額は約３億 7,600 万円。町は２億 9,600 万円を単費で補助し、約 8,000 万円は経産省の地域商業自立促進事業補助金を充てた。店舗用地は、町有地を無償貸与している。開店直後の来店者数は１日平均 300 人で、現在は 250 人程度で推移している。コミュニティスペースでは、商工会のビールパーティや、スポーツのパブリックビューイングなどのイベントを開催するなど、住民の憩いの場として定着しつつある。本研修では「ＣＯＣＯＷＡ」の整備に至る背景や経過、町の取組手法、開業後の住民生活や地域経済における効果等を通じて、人口減少時代における買い物支援対策や生活サービス機能の維持について学ぶ。